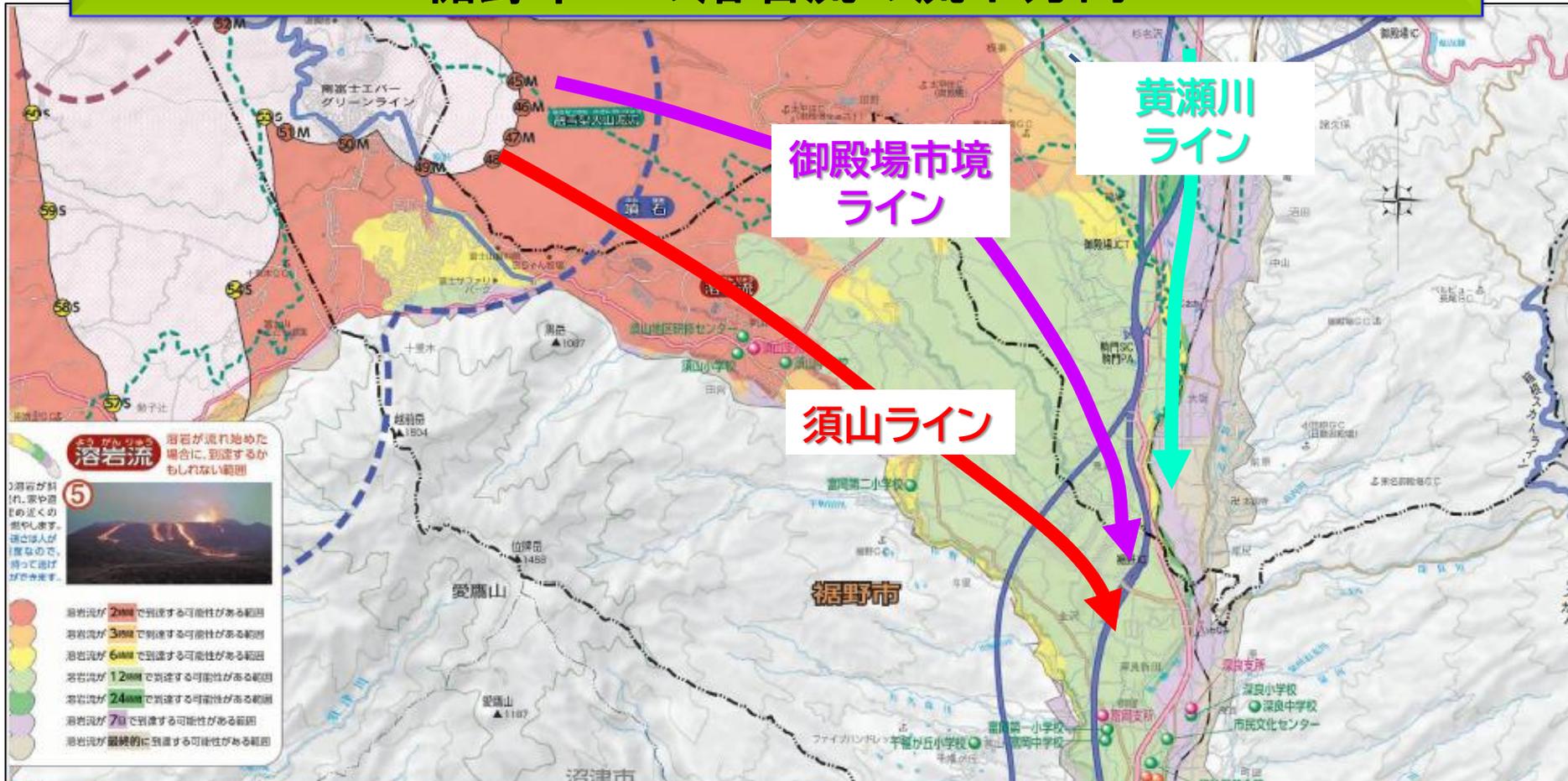


裾野市への溶岩流の流下方向

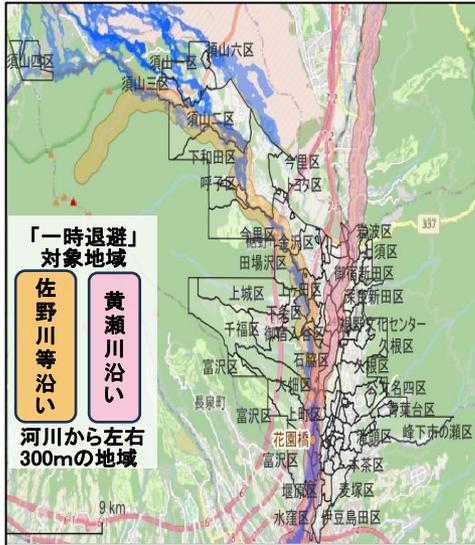


**裾野市の溶岩流
流下方向は、
大きく3方向**



裾野市への溶岩流の流下ライン(4ライン)

須山ライン (対象7コ: 小規模×3、中規模×4)



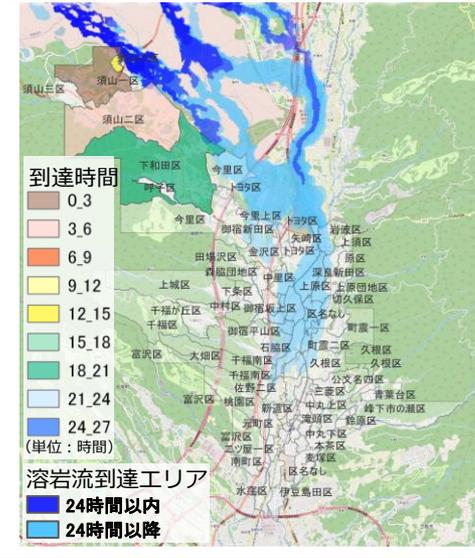
- ◆避難対象 25コ区・12,245人
- ◆流下の特徴
 - ◇河川沿い迅速流下 (市南端迄約12時間)
 - ◇市街地の多く未流下
 - ◇市役所・福祉保健会館ともに健在
- 避難の考え方等
 - 河川沿いに避難地域を絞り、「一時退避」実施後に、流下状況に応じた「市内避難」を実施
 - 避難対応(対象)地域を絞る。(川左右300m)
 - 1~2日目以降、細部指示

黄瀬川 (M43) ライン (対象1コ: 中規模×1)★特質ライン



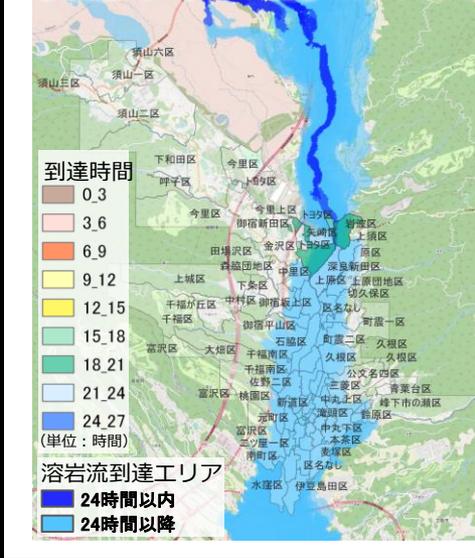
- ◆避難対象 42コ区・20,774人
- ◆流下の特徴
 - ◇御殿場方向から河川沿いに早く流下(市南端迄約2日)で流下し、約3.5日で市街地の広範囲に流下する。
 - ◇文化センター以北は、河川沿い流下(川左右300m絞る)
 - ◇市役所・福祉保健会館ともに移転が必要
- 避難の考え方等
 - 当初、河川沿いに避難地域を絞り「市内避難」しつつ、並行的に多数「広域避難」を実施
 - 県・隣接市町との連携

御殿場市境ライン (対象4コ: 小規模×2、中規模×2)



- ◆避難対象 29コ区・約12,200人
- ◆流下の特徴
 - ◇市街地への流下時間が遅い。(住宅地流下約4日、市街地流下時に、噴火位置はほぼ確定)
 - ◇市街地南側半分に未流下
 - ◇市役所は健在、福祉保健会館は移転必要
- 避難の考え方等
 - 溶岩流の流れ(リアルタイムハザードマップ等)に応じ、「市内避難」を追求
 - ※ 必要により市外、広域避難

黄瀬川 (その他) ライン (対象12コ: 小規模×1、中規模×4・大規模×7)



- ◆避難対象 (※今後、溶岩流流下面積比率で対象者数を絞ることを検討) 67コ区・40,428人
- ◆流下の特徴
 - ◇御殿場方向から、河川沿いにゆっくり流下(市街地流下時に、噴火位置はほぼ確定)
 - ◇ラインによっては、市街地の多く(ほぼ全域)に流下
 - ◇市役所・福祉保健会館ともに移転が必要
- 避難の考え方等
 - 溶岩流の流れ(リアルタイムハザードマップ等)に応じ「広域避難」を段階的に実施
 - ※県・隣接市町との連携